教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」

志 学校だより

R5 .1 .10

四日市市立内部中学校　第 36 号

『まごころ』の一年に



冬休みが終わり、今日から３学期が始まりました。生徒のみなさんの声が戻ってくると、学校は活気を取り戻し、一つの生命のように輝きだします。学校の主役が生徒のみなさんであることを、深く認識させられます。一年間のまとめとなる学期ですし、特に３年生にとっては義務教育最後の学期となりますので、仲間や先生方とともに充実した毎日を過ごして欲しいと思います。

さて、２学期には『つながる』と『体験する』ことに積極的に取り組んで欲しいとお話ししました。冬休みも、多くの『体験する』ことができたでしょうか。また、友だち、家族や親戚、地域の方々と『つながる』ことができたでしょうか。豊かな『体験』や、他者や社会、様々な物事との『つながり』は、みなさんの人生を豊かでやりがいのあるものにしてくれることでしょう。

２学期の終業式にも少しお話ししましたが、様々な行事や出来事の向こう側には、必ず誰かがいます。『体験』することにも、誰かしら他者との『つながり』があるはずです。**私たちは、様々な他者と関わり合いながら生活しています。決して一人で生きている訳ではありません。**

そこで大切にしたいことは、以前からお話ししている『他者を慮ること』です。他者への思いやりを持ちながら毎日を過ごすことが大切です。誰だって、周りの人から大切にされたいと思うことでしょう。それならば、**まずは自分が周りの人を大切にするべきなのです。**

時には腹が立つこともあるでしょう。嫌なことや辛いこともあるでしょう。そんな時に、誰か他者のせいにしてしまうと、一時は気持ちが晴れたり、落ち着いたりするかもしれません。しかし、それでは根本的な解決にはなりません。逆に自分ばかりを責める必要もありません。でも相手の気持ちや立場を慮ることができれば、幾分かは嫌な気持ちや辛さは軽減されることでしょう。

今年は『慮る』を、『思いやる』とは、少し違う言葉で、みなさんに伝えていこうと思います。それは**『まごころ』**です。辞書には「他人のために尽くそうという純粋な気持ち」「偽りや飾りのない心」「誠意」と書かれています。「うそいつわりのない心」とも言えます。周りの人と接する際に、純粋でうそいつわりのない気持ちで接することができれば、きっと温かい人の関係が生まれます。そして誰にとっても居心地の良い人の輪ができるでしょう。そうした環境は、みなさん一人一人にとっても、過ごしやすく、自分らしさを発揮できるものとなるでしょう。

この内部中学校が、関わるすべての人にとって、やりがいが持て、安心して過ごせる場所となるためには、みなさん一人一人の**『まごころ』**が必要なのです。よい３学期にしましょう。

本の紹介　「空想教室」好奇心を“天職”に変える　植松 努　著　〔サンクチュアリ出版〕

植松さんのお話は、以前東海北陸中学校長会の特別講演で聴いたことがあります。その時も、「なるほど」と思える内容が多かったですが、本書では、それらの内容が更にわかりやすく、中学生が読んでも理解できるように書かれています。今回も「なるほど」と思える内容をメモしていたら、Ａ４用紙に３枚にもなってしまいました。この紙面では伝えきれませし、それでは本を読む楽しみが減ってしまいますので、メモした中から抜粋して紹介します。



・「思うは招く」本気で思い続ければ、本当にそうなる。
・「夢」とは？日本の辞書「はかないもの。叶わないもの」
　アメリカの辞書「強く願い、努力すれば実現できるもの」
・「夢」がいらなかった時代は終わろうとしている。
・「夢」を、大人や社会にあきらめさせられたらいけない。
・人にしてもらうのではなく、何でも自分でやってみる。
・責任の向う側にしか、仲間はいない。
・すでにこの世に「あること（仕事）」ではなく、「ないこと（仕事）」を始めてみる。
・なくなる「お金」ではなく、なくならない「知識」をためる。
・お金があるから手に入るのではなく、誰かがつくって　売ってくれているから手に入れられる。
・教科書に書いてあることは全部「昔のこと」。でも素晴らしい人間の努力と命が詰まっている。
・「知らないこと」「不思議なこと」は、英語で「ワンダー」。いっぱいあると「ワンダフル」。
・失敗したら、誰も責めずに「なんでだろう」「次はこうしてみる」と考える。声をかけ合う。
・大学は本来学問を探求する場所。「いい会社に入るための資格を得るところ」ではない。
・他人にどう評価されても、自分たちの評価を信じよう。偏差値や成績にとらわれてはいけない。
・「気が合う人」よりも「経験のある人」に相談しよう。（誰に質問すればいいかを見極めよう。）
・人生はフライングした人が先に進める。一番手っ取り早いフライングの方法は、本を読むこと。
・ピンチになったら、困難を乗り越えた先人（心の中のヒーロー）に助けてもらう。
・人はみんな「違う」から素晴らしい。自分と違うタイプの人こそが本当の仲間になってくれる。
・「憧れ」は、未来をより良くするパワー。届かないものに手を伸ばすべき。
・他人の「もうだめだ」に、乗っかってはいけない。「まだできること」だけを考えればいい。
・普段から「知りたいこと」と「やってみたいこと」を、なるべくいっぱい貯めておく。
・「楽そうな方」ではなく、「楽しそうな方」を選ぶ。楽ばかりしていると「無能」になる。
・何か不都合なことが起きた時は、自分と、天使の自分と、悪魔の自分の３人で話し合う。
・「うぜえ」「むかつく」と言ってないで、考えて解決方法を見つける。
・本物の新製品は、「悲しみや、苦しみや不快の解決」から生まれる。
・いやなことと出会ったら、チャンスだと考えよう。　※ピンチはチャンス！

まだまだ素敵な言葉がたくさんあります。後は自分で読んでみてください。世界が広がります。本の冒頭にはこう書いてあります。「あきらめ方を知らずに生まれた、すべての人たちへ。」